

三月は卒業の季節です。日本全国で卒業式が執り行われます。小学校から中学校へ、大学から社会へ、新たな世界へ入ってゆく儀式。心躍おどらせた学生が街にあふれるのもこの季節ならではの風景です。

「卒業」は文字通り、その“業（ぎょう）”を“卒（お）える”という意味です。卒業する本人はもちろんですが、保護者にとっても子どもの教育の過程が一つ終了するという、少しホッとする機会でしょう。

また、「卒業」にはある段階や時期を通り過ぎるという意味もあり、例えば「悪い事は卒業しました」などという使い方をする場合もあります。

ただ、卒業はあくまでも、人生の中の一区切りでしかありません。卒業した後も、人生は続くのです。

だいほんざんえいへいじ どうげん しょうぼうげんそうすいもんき
大本山永平寺を開かれた、道元禅師は『正法眼蔵随聞記』の中で、
かくどう も さと え しごく ぎょうどう やむ
「学道の人、若し悟りを得ても今は至極と思ふて行道を罷ることなかれ。
どう むきゆう . . . なお ぎょうどう
道は無窮なり。さとりても猶行道すべし。」と示しています。

「もし悟りを得ても、これが究極だと思って修行をやめてはならない。
ぶつどう
仏道に終わりはない。悟ってもなお、修行なのである。」という意味です。

この言葉は、修行者への言葉ではありますが、現代を生きる我々にも示唆しきを与えてくれます。「悟さとる」を「卒業」に言い換えてみてください……。

「もし卒業してもこれで安心してそれまでの努力を忘れてはいけない。
人生に終わりは無い。」

卒業を一区切りとしてホッとしていてもすぐに新たな生活は進んでゆきます。卒業でそれまで努力してきた事や、心に決めてきた事をリセットするのは簡単ですが、それは悲しく残念な事です。

卒業を区切りと考えるよりも、これからの生活のためにこころざし“志”を新たに作る機会と考えるみてはいかがでしょう？